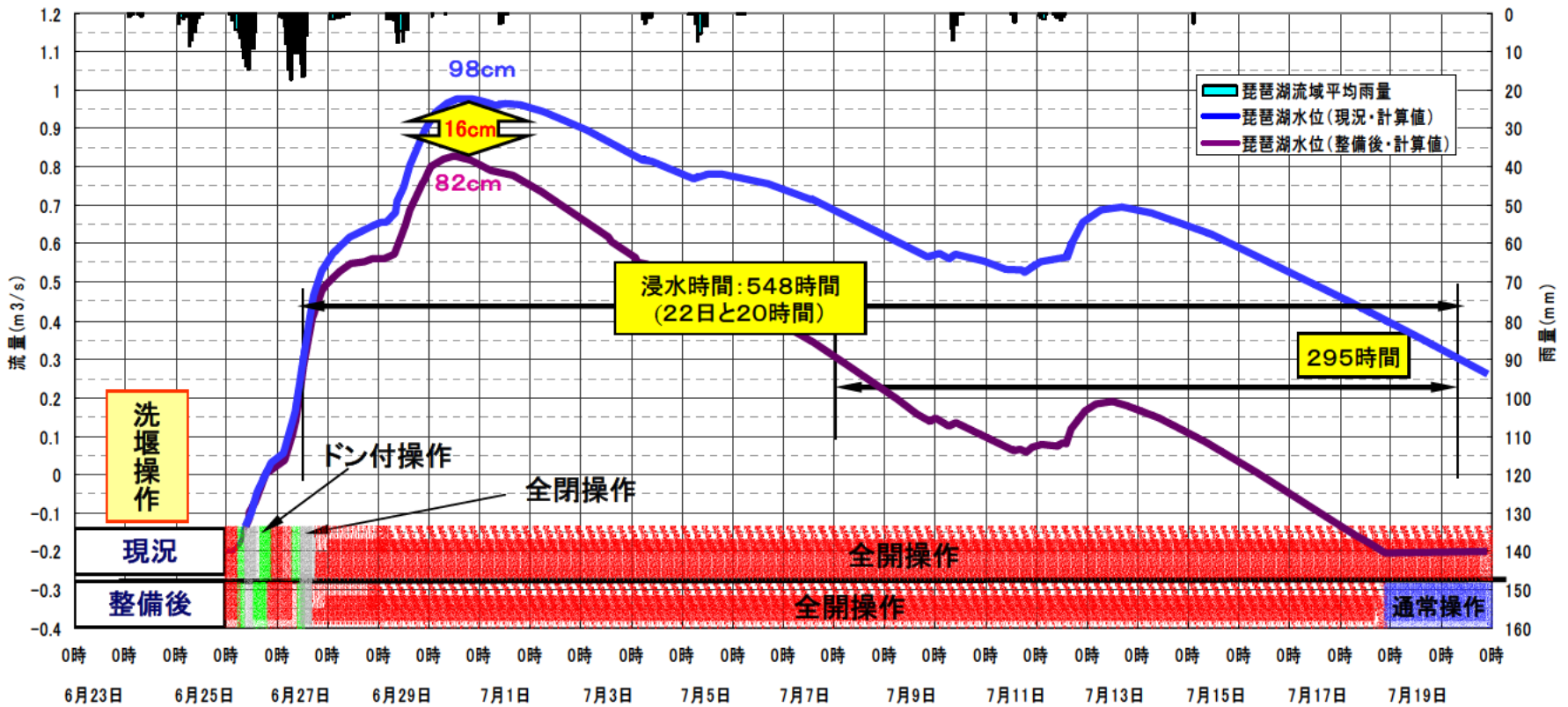


# 瀬田川・宇治川の流下能力増強 の効果（昭和36年6月洪水）

琵琶湖水位ハイドログラフ（昭和36年6月実績降雨によるシミュレーション）

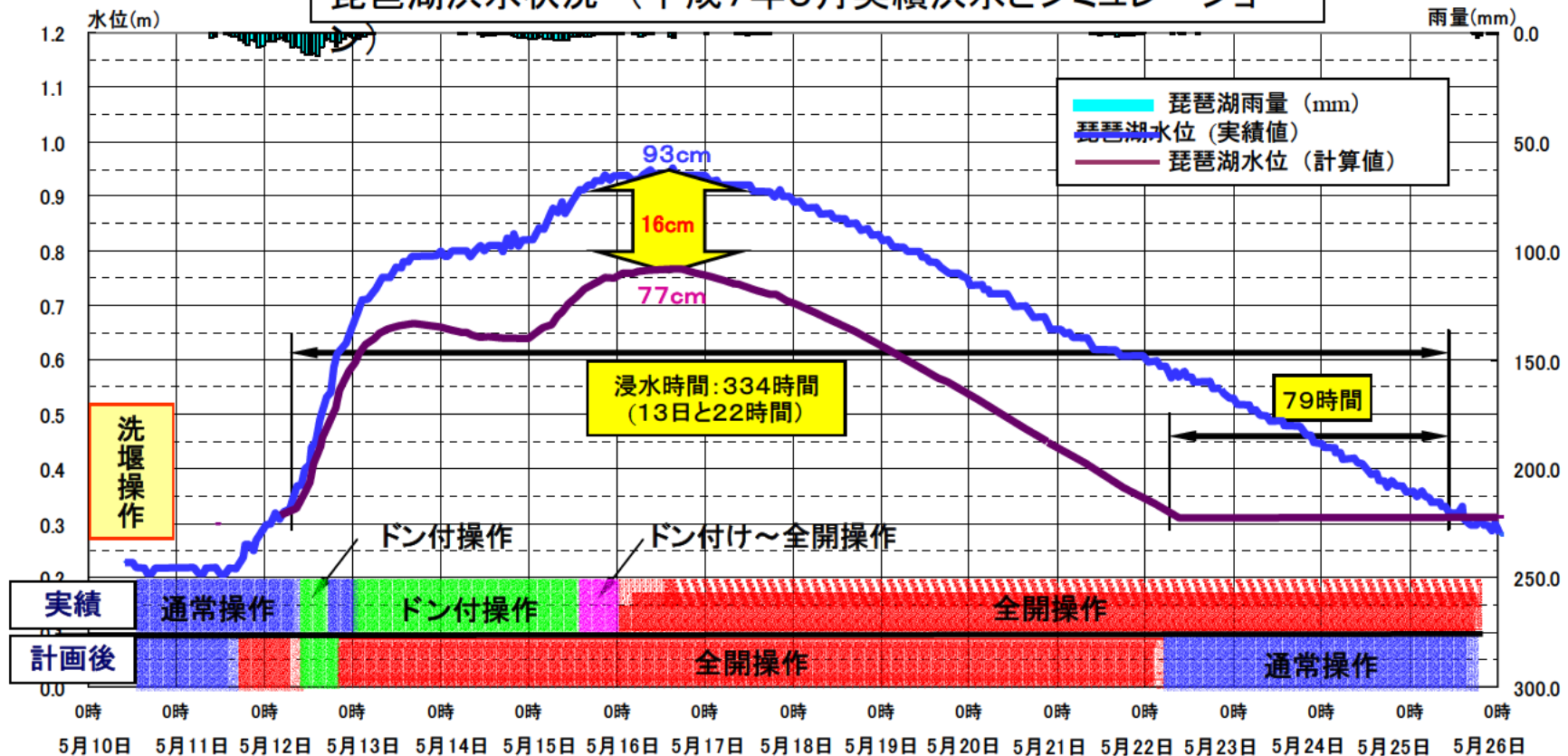


	琵琶湖水位	浸水時間	効果
昭和36年6月洪水現況 被害状況	+ 98cm	548時間	295時間
天ヶ瀬ダム再開発後 被害状況	+ 82cm	253時間	

凡 例  
 グラフ内の浸水時間は、琵琶湖水位が30cm以上だった時間を計上。

# 瀬田川・宇治川の流下能力増強 の効果（平成7年5月洪水）

琵琶湖洪水状況（平成7年5月実績洪水とシミュレーション）



	琵琶湖水位	浸水時間	効果
平成7年5月洪水 被害状況	+93cm	334時間	79時間
天ヶ瀬ダム再開発後 被害状況	+77cm	255時間	

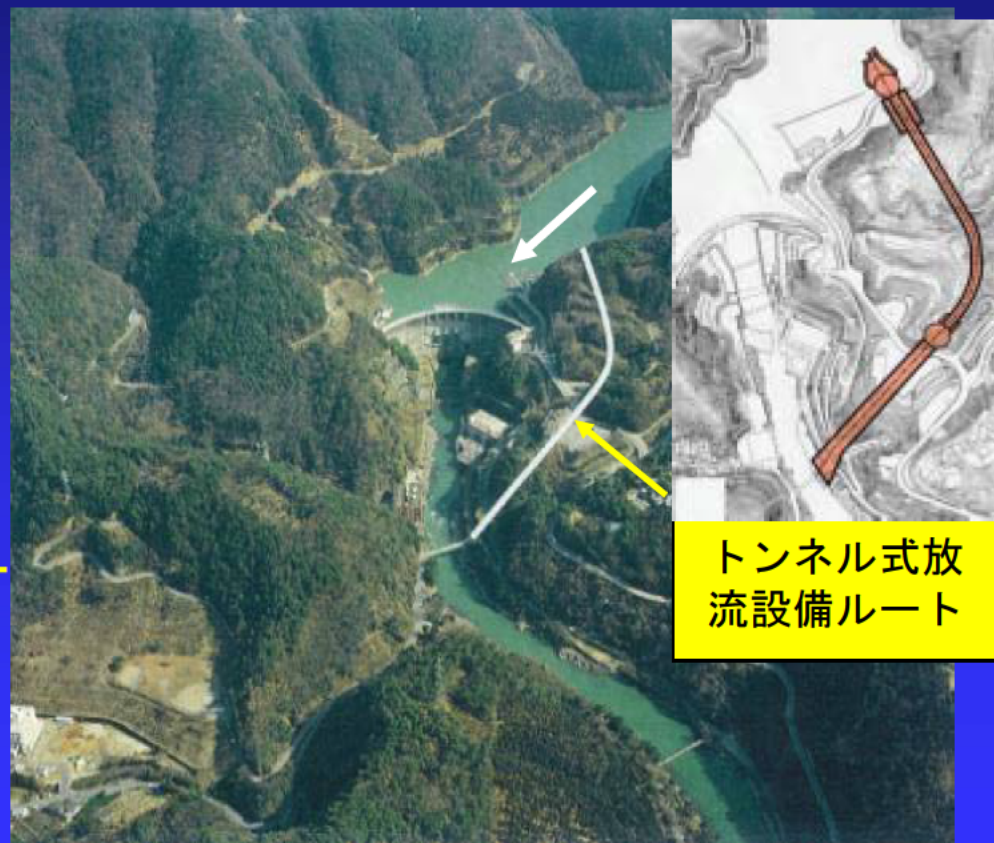
凡 例  
グラフ内の浸水時間は、琵琶湖水位が30cm以上だった時間を計上。

# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

宇治川の流下能力が $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 確保されたとしても、天ヶ瀬ダムの貯水位を満水近くまで高くしないと、 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が放流出来ない

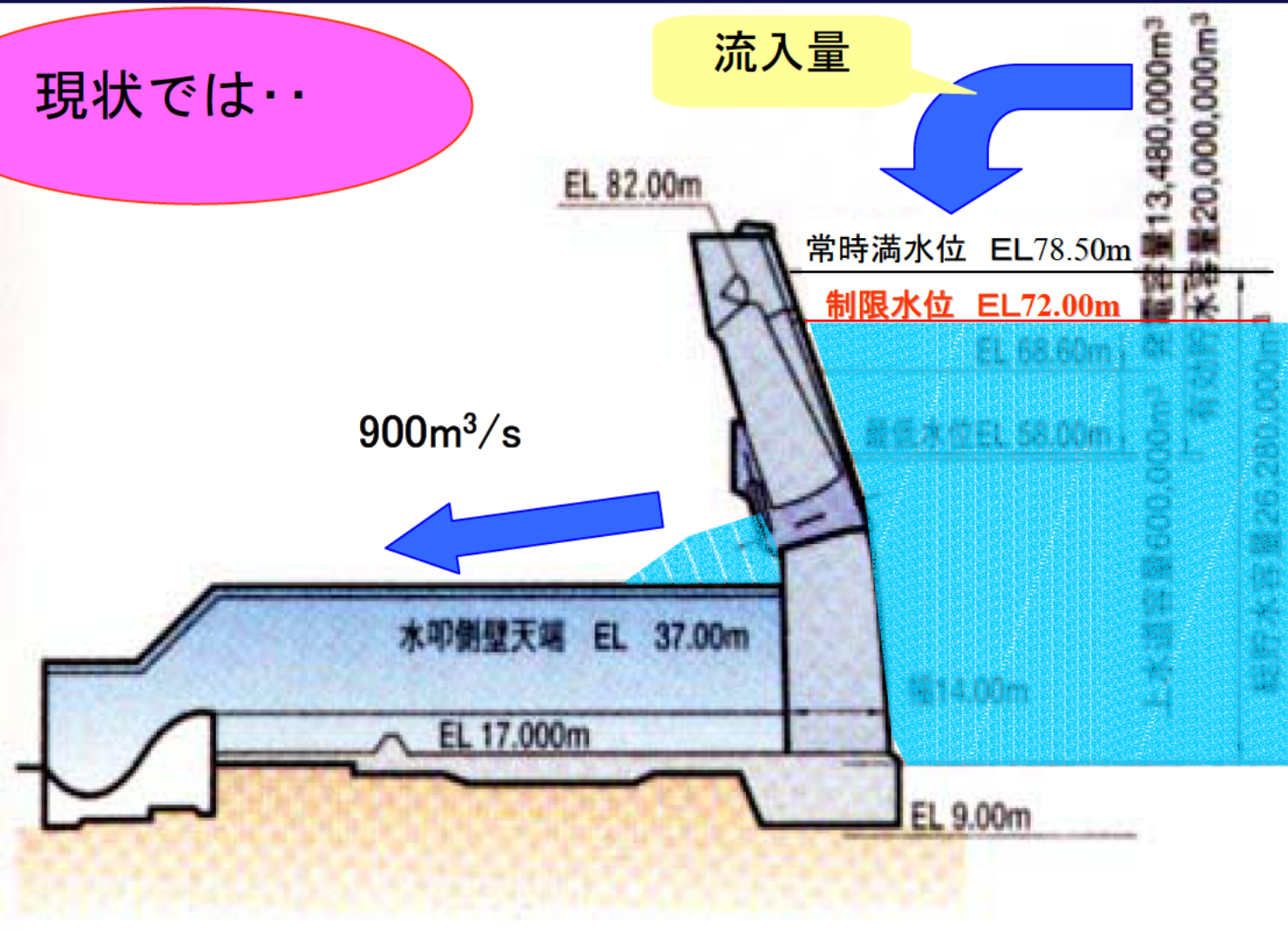
→洪水を貯めるための容量が確保出来ない

→通常の天ヶ瀬ダムの貯水池の運用範囲内でも、天ヶ瀬ダムから $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が放流出来るように放流能力UPが必要



# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

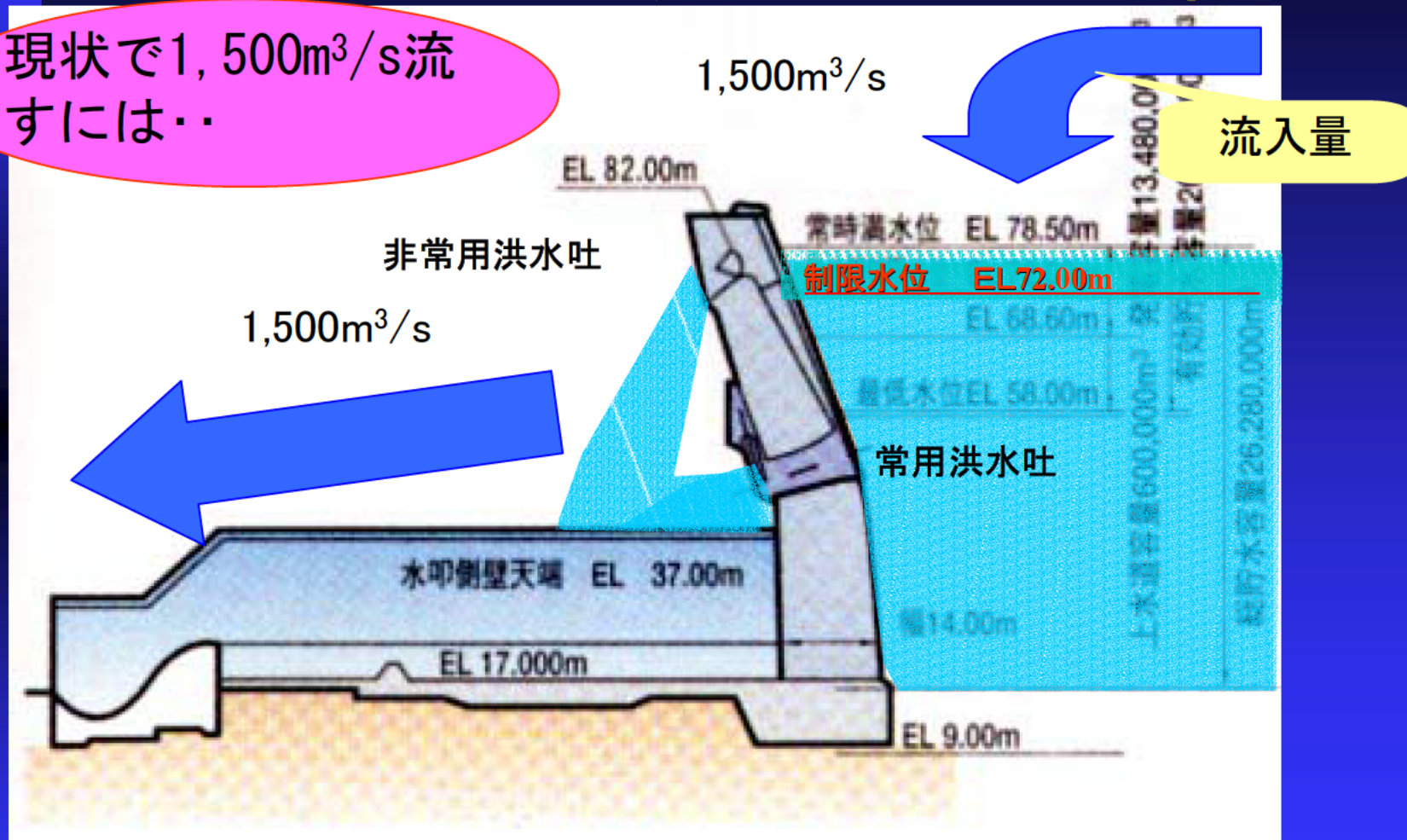
現状では…



制限水位では $900\text{m}^3/\text{s}$ しか流れません。

# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

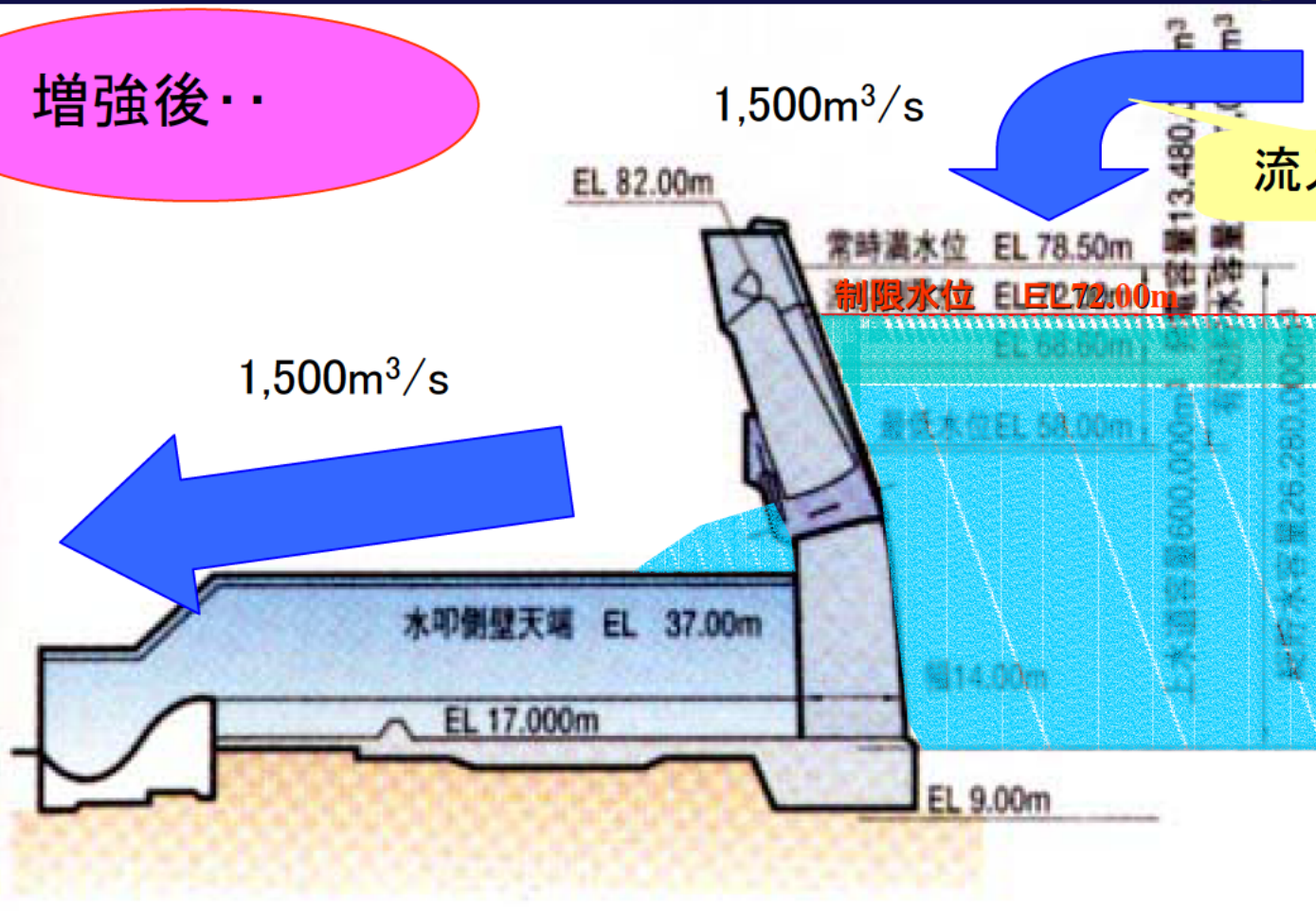
現状で1,500m<sup>3</sup>/s流すには…



現状で1,500m<sup>3</sup>/s流すには貯水位を満水位近くにしないと流せません。

# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

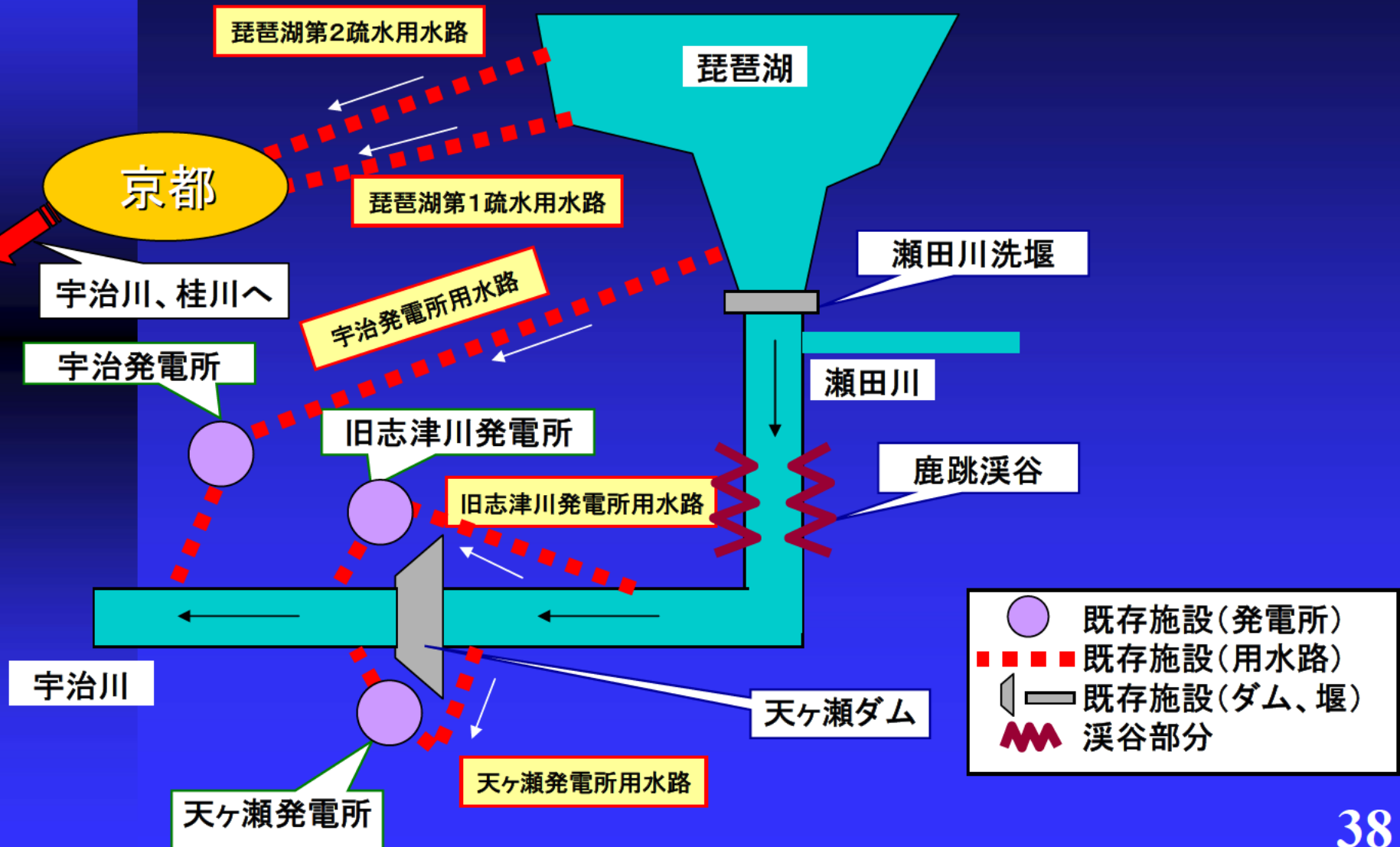
増強後..



増強後は、制限水位でも1,500m<sup>3</sup>/sを流すことができます。

# 施設計画の見直し

## 施設位置模式図



# 整備計画に記述する内容

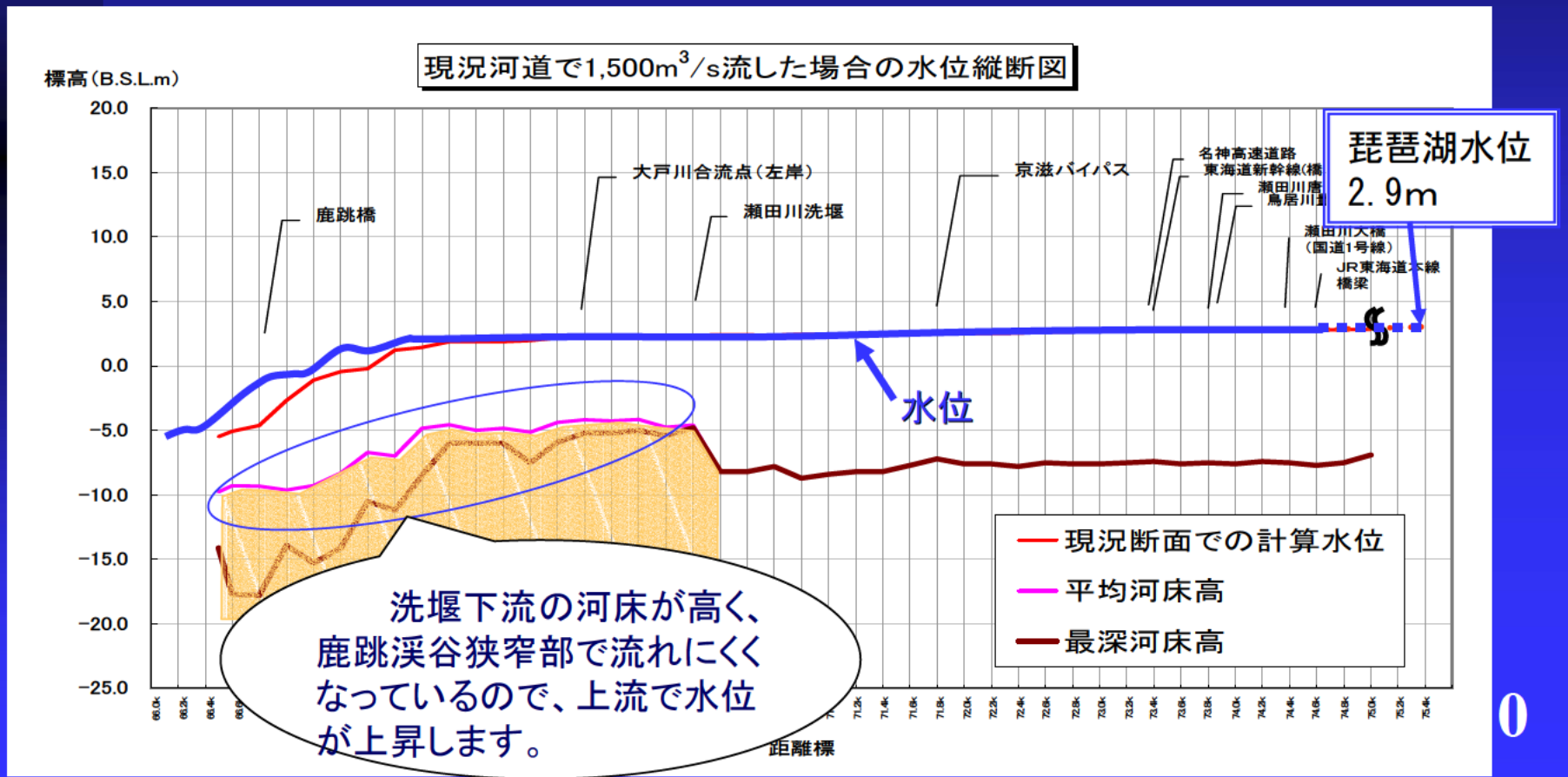
天ヶ瀬ダム再開発事業について、以下の検討事項を踏まえて計画の内容を見直す

- 1) 琵琶湖周辺等の洪水被害の軽減を図る
- 2) 放流能力の増強に当たっては既存施設の有効利用を検討する
- 3) 利水について、水需要を精査、確認する



# 瀬田川の流下能力の増強

宇治川の流下能力が $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 確保されたとしても、琵琶湖水位を2.9mまで高くしないと、瀬田川では $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が流れない(琵琶湖水位1.4mでは $1,100\text{m}^3/\text{s}$ 程度しか流れない)→瀬田川の流下能力UPが必要



# 瀬田川の流下能力の増強



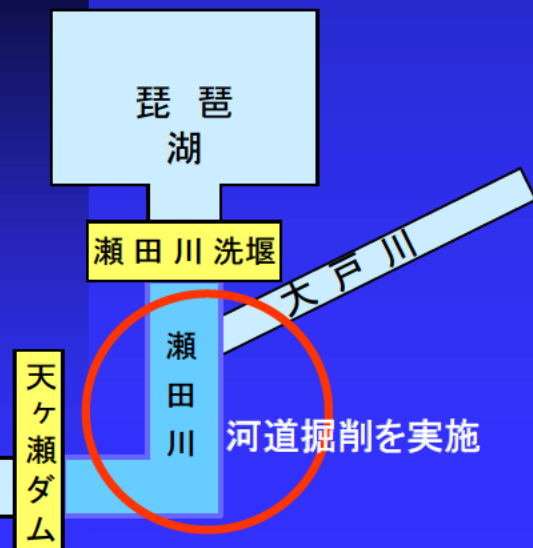
鹿跳橋より上流をのぞむ

# 瀬田川の流下能力の増強対策

## ◆瀬田川改修

1, 500m<sup>3</sup>/sが流し  
得る断面を確保(現  
状では1, 100 m<sup>3</sup>/s  
程度しか流れない)

概算事業費: 35億円



# 瀬田川の流下能力の増強対策



概算事業費：130億円

鹿跳溪谷においては自然景観を保全するために当該区間を迂回する鹿跳トンネル等を検討する。

# 整備計画に記述する内容

- ・塔の島地区において天ヶ瀬ダム再開発見直しの検討結果及び下流の破堤対策の進捗を踏まえて河道掘削を実施
- ・新隠元橋架橋（京都府と一体施工）に合わせた引堤を継続実施
- ・琵琶湖後期放流に対応するため、狭窄部に設置されている天ヶ瀬ダムの放流能力を増強するため、既存施設の改造等を含めて再開発の見直しを検討

# 瀬田川、宇治川の流下能力 増強による琵琶湖環境の改善

## ◆琵琶湖環境の保全復元

琵琶湖からの流出量を増強したことにより、  
洪水期の制限水位の変更に寄与することが  
出来ます

